

秋の叙勲 喜びの声

旭日小綬章

女優

宮本信子さん 77



瑞宝重光章

国立天文台名誉教授

家正則さん 73



演じ続け60年 幅広がる

受章の知らせに、高校を卒業し、女優を目指して上京した頃を思い出した。東京・渋谷の道玄坂の上に浮かぶ白い雲に「どんなことがあっても辛抱して頑張ります」と誓った。それから約60年。「皆さんのおかげで素晴らしい勲章をもらった。でも、これからですよ」数多くの映画やドラマ、舞台に出演してきた。代表作は選びがたいが、主演作「マルサの女」など、夫の故伊丹十三監督の映画は

「大事な宝」だ。「ワンカットを粗末にしては絶対ダメだと、たたき込まれた。熱演ではない、一つ一つの積み重ねなんです」

女優の前に、自分の人生をきちんと生きること大切にしてきた。「体も気持ちも健康が第一。穏やかな日常があつてこそ、仕事ができる」。年を重ね、演技の幅が広がったと感じている。「これまでやったことのない役を演じてみたい」。充実ぶりをうかがわせた。

宇宙の歴史解明 尽力

米ハワイにあるすばる望遠鏡を駆使し、地球から見るかかなたの銀河を発見するなど、宇宙の長い歴史の解明に取り組んできた。「天文学の底上げに貢献したと評価してもらえたとしたら光栄」と頬を緩ませた。

英国やドイツの留学経験から、天文学発展の鍵を握るのは最先端の望遠鏡だと痛感した。その経験からする望遠鏡は自ら構想段階から開発に関わり、1999年の完成にこぎ着けた。

新型望遠鏡の性能を存分にいかし、2006年には地球から約130億光年離れた銀河を発見。最も遠方にある銀河の観測記録を塗り替えた。

「誰も見たことがない宇宙、銀河を分析できるのが天文学の魅力。体が動く限り研究を続けたい」。小学生の頃、図書館で見た渦巻き銀河の写真にとりこなつてから60年余り。今でも渦巻き銀河の分布などについて研究を続ける毎日だ。